



祐介の目

大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.84

毎月1日号に掲載

意整備が進められている。

さらに周辺の市町と比較して手薄と批判されていた子どもの医療費助成制度の拡充についても9月議会で見直しの方針が打ち出される予定だ。議会としても医師会や歯科医師会の先生方と意見交換を行ってきた成果が表れると期待している。医師会より要望のあった「子ども及び妊婦を受動喫煙から守る条例」も3月議会で議員提案により可決成立したところだ。

記録的豪雨の後には連日猛暑が続ぎ、本当に今年の夏は異常気象であった。学校へのエアコン設置は議会でも度々話題になっていたが、福山市教育委員会もついに市内の全小中学校にエアコンを設置する方針を固めた。子ども達に聞けば、夏の教室は配布されたプリントが手の汗で濡れて読めなくなるほどの暑さだそうだ。試算では約50億円の費用がかかるが、3年後に設置完了を目指して計画を進めている。

さて、子どもの学習環境整備と例えば、福山市の小中学校は耐震基準が変更される昭和40年代後半に建設された校舎が多く、耐震率は全国最低と批判を受けていた。このため学校の耐震化工事は毎年10億円前後の予算を組んで前倒しで進んでいる。遅れていた学校給食も2年後の完全実施に向けて鋭

このように三好教育長が掲げる「すべては子ども達のために」というキャッチフレーズは行政と議会が一体となって着実に実施されている。一方で私は足りていない分野も多いと感じている。例えば子どもの為のスポーツ施設の不足の問題、野球場などは多くのチームが取り合いの状況と聞く。海や山川で遊ぶ機会も大きく減少したが、文部科学省によれば自然体験の多い子どもほど正義感が強いという調査結果が出ている。過疎地の空き校舎を活用して臨海学校や林間学校といった取り組みを復活させられないか。読書離れも著しく、スマホと睨めっこしている子どもものなんと多い事だろう。長年要望しているが、学校図書館にぜひ司書を配置してほしい。